

各学部・研究科**未来**プラン

## 目次

<b>1 はじめに</b>		
〈1〉	位置づけ	1
〈2〉	特徴	1
〈3〉	表記	1
〈参考〉	大学憲章／中期目標・中期計画／名市大未来プラン	2
<b>2 各学部・研究科未来プラン</b>		
〈1〉	主な取組み	3
〈2〉	学際的・組織横断的な取組み	4
—各未来プラン概要—		
	<b>医学部・医学研究科</b> 「人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科」	6
	<b>附属病院</b> 「サクラ咲くプラン」	8
	<b>薬学部・薬学研究科</b> 「薬学未来プラン“薬進”」	10
	<b>経済学部・経済学研究科</b> 「名古屋とともに世界を翔ける名市大経済」	12
	<b>人文社会学部・人間文化研究科</b> 「人社の改進黨」	14
	<b>芸術工学部・芸術工学研究科</b> 「希望と共感のデザイン」	16
	<b>看護学部・看護学研究科</b> 「進化する名市大看護学部・看護学研究科」	18
	<b>システム自然科学研究科</b> ※平成30年度総合生命理学部新設 「リーディング・サイエンス・プラン」	20

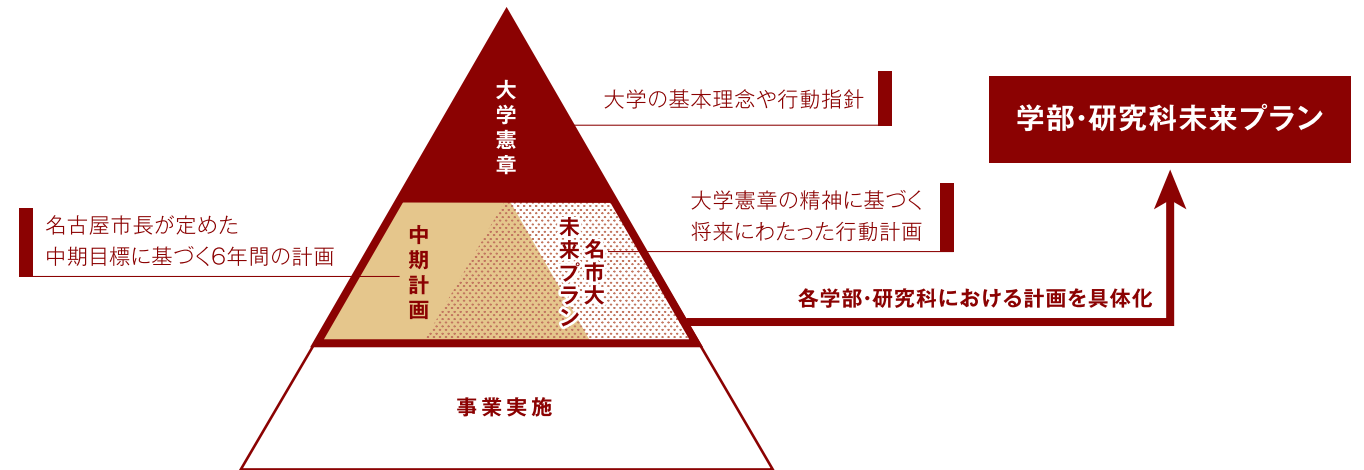
## 1. はじめに

### 〈1〉位置づけ

平成26年10月に策定しました大学憲章及び本学の明るい未来をグランドデザインする「名市大未来プラン」(次頁<参考>参照)における4つのビジョンと52の項目の着実な実行と全学的な展開を図るため、このたび、各学部・研究科における計画を具体化させた事項・内容を、「学部・研究科未来プラン」として策定しました。

「各学部・研究科未来プラン概要版」は、大学全体として概要をまとめたものです。

〔大学憲章と名市大未来プランの関係イメージ〕 概念図



### 〈2〉特徴

本計画における記載内容は各学部・研究科、附属病院における取組みが基本ですが、全体としては、各学部・研究科、附属病院間の学際的・組織横断的な連携・協力の強化が図られています。

### 〈3〉表記

ア 期間 名市大未来プランにならない、実現するまでの期間について、以下の4つの区分で記載しました。

区分	学部・研究科未来プラン(平成27年10月策定)	名市大未来プラン(平成26年10月策定)
i	1年以内に実現させる事項	1年以内に実現させる事項
ii	今後3年間(平成29年度末まで)に実現させる事項	今後4年間(平成29年度末まで)に実現させる事項
iii	今後7年間(平成33年度末まで)に実現させる事項	今後8年間(平成33年度末まで)に実現させる事項
iv	15年後を見すえながら実現に向けて取り組む事項	15年後を見すえながら実現に向けて取り組む事項

イ 組織 「組織」欄の表記の意味は以下のとおりです

医⇒医学部・医学研究科、病⇒附属病院、薬⇒薬学部・薬学研究科、経⇒経済学部・経済学研究科、人⇒人文社会学部・人間文化研究科、芸⇒芸術工学部・芸術工学研究科、看⇒看護学部・看護学研究科、シス⇒システム自然科学研究科

## 〈参考〉大学憲章

本学の開学記念日である平成26年10月28日に、本学の基本理念や行動指針となる名古屋市立大学憲章を制定しました。

### 前文

名古屋市立大学は、自然の恵み豊かな濃尾平野の大地に抱かれた中部圏の中心都市である名古屋市の市民によって、1950年に設立された。

医学部、薬学部からなる公立大学として開学した本学は、名古屋薬学校(1884年開校)と名古屋市立女子高等医学専門学校(1943年開校)を源流とする。その後、地域社会の要請に応じて学術的貢献領域を拡充しつつ、2006年には公立大学法人化を果たし、現在、6学部7研究科を有する都市型総合大学となり、さらなる進化を遂げようとしている。

本学は、これまで一貫して地域に開かれ、広く市民と連携し、協働してきた。科学・技術・芸術・文化・産業・経済の発展と医療・健康福祉の向上に寄与し、それぞれの分野で、知性と教養に溢れ、創造力に富んだ次世代を担う有為な人材を輩出している。

教職員、学生をはじめ、本学に集うすべての人は、市民の付託に応え、真理を探究し、本学が人類の幸福に資する実践的な研究成果を世界に発信する誇り高き「知の創造の拠点」となるため、今後も果敢に行動していくことを誓い、ここに大学憲章を制定する。

## 〈参考〉中期目標・中期計画

中期目標は、本学の公立大学法人化後の各6年間における業務運営の方向性を設立団体(名古屋市)の長が定めたものです。本学では、中期目標を達成するための具体的な取り組みを中期計画として定め、さらに中期計画の確実な実行に向け毎事業年度の計画(年度計画)を定めてその遂行に取り組んでいます。

第三期中期目標・中期計画の概要(主な取り組み) 期間:平成30年4月～平成36年3月

基本的な理念 全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす

- 地域社会と国際社会に貢献し、次世代をリードできる優れた人材を輩出する。
- 健康・福祉の向上、生命現象の探究、経済・産業の発展、都市政策とまちづくり、子どもの育成支援、国際化の推進、文化芸術の発展などに関する研究課題に重点的に取り組む。
- 地域に開かれた大学として、広く市民や名古屋市などとの連携を一層強化し、地域や行政の課題解決に寄与する。地域の医療の発展に中核的な役割を果たし、生涯にわたる教育の推進に積極的に寄与する。

これらの活動を市民の理解を得ながら推進していくために、より積極的に情報を発信し、説明責任を果たす。また、大学の運営体制の自律性・弾力性を強化し、財務内容の改善に取り組むことで、運営の基盤を強化する。

## 〈参考〉名市大未来プラン

時代の変化に的確に対応し、本学の強みを活かしながら、名市大の15年後の明るい未来を築いていくため、名市大未来プランの策定をしました。

### 4つのビジョン

**誇りを持ち、愛される名市大** —教育・研究・診療の環境づくり—

**名古屋市と共に発展する名市大** —名市大の明るい未来づくり—

**戦略性を持って世界に飛躍する名市大** —和、実行力、戦略性、透明性のある大学づくり—

**経営基盤が安定した名市大** —経営改善に向けた体制づくり—

## 2.各学部・研究科未来プラン

### 〈1〉主な取り組み

各学部・研究科、附属病院の未来プランの掲載項目から、第二期中期計画期間内である期間ii(平成29年度末まで)に実現させる項目を中心に3項目を主な取り組みとして整理しました。

組織	主な取り組み
医	①プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革
	②病院機構改革と協働した組織強化および最先端の医療研究の推進
	③附属病院等との協力による総合的な人材育成システムの構築
病	①新たな組織の設置及び施設整備
	②研究の推進
	③医療人の育成
薬	①創薬基盤科学研究所の拡充と戦略的研究展開
	②高度薬剤師養成に向けた連携
	③海外拠点の設置
経	①大学院教育システム等の改善及び研究者の養成
	②名古屋市をはじめ公的機関との連携の拡大／地元企業等との連携の拡大
	③最先端で高水準な研究の推進と次世代リーダーの育成
人	①ESDを柱とした教育・研究活動の絶え間ない革新
	②大学院における専門職のリカレント教育の実施
	③名古屋市教育委員会子ども応援委員会事業への強力なサポート
芸	①大学院生研究体制の強化
	②外部資金の獲得推進
	③実習課題への地域課題の導入
看	①実習施設との連携による教育方略の導入
	②名古屋市立大学看護学会(仮称)の創設と学会誌の発刊
	③学部開設20周年(2019年)記念事業の実施
シス	①研究基盤の重点的整備の推進
	②理学系新学部の設置
	③高齢者による自然科学振興のための新たな組織(SSLIC)の構築

## 〈2〉学際的・組織横断的な取組み

各学部・研究科、附属病院の未来プランの掲載項目から、各学部・研究科、附属病院間の学際的・組織横断的な取組みを整理しました。

区分	項目	期間	組織	掲載頁
教育	<b>①全学的な教養教育の充実</b> 教養教育を企画立案し総括的な権限を持った教養教育センター（仮称）の下に全専任教員がいずれかの部会に登録する部会登録制の導入や、語学教育充実のための語学センター（仮称）の設置などを全学で進めます。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	5 4 2 2 9 1 3
	<b>②リカレント教育の再構築</b> 名古屋市立大学全体の社会人リカレント教育（「学び直し学部（仮称）」の設置など）の再構築を進めます。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	7 7 3 2 8 1 5
	<b>③優秀な医療人を輩出する教育の実施</b> 附属病院等との連携により、専門医・指導医、高度薬剤師、看護職者の育成等を進めます。	i ~ iii	医 病 薬 看	3 15 4 1
教育・研究	<b>④医療経済マネジメントコースの設置</b> 医療関係者を対象として経済学・経営学に関連する高度専門的教育を実施します。	i ~ ii	医 薬 経	2 4 2
	<b>⑤医療心理センター（仮称）の設立</b> 医療心理学の実践と学際的な研究を担える人材を育成します。	ii	医 人 看	2 3 2
	<b>⑥大学院医薬学総合研究科（仮称）の設置</b> 医学研究科と薬学研究科の大学院を統合し、大学院医薬学総合研究科に再編成します。	ii ~ iii	医 薬	4 4
	<b>⑦文文学部・研究科における交流拡大</b> 文文学部・研究科間の単位互換・ゼミ同士の交流など学部授業の相互乗り入れを拡大します。	i ~ ii	経 人	3 3
研究	<b>⑧戦略的な外部資金の獲得</b> 学部・研究科間の連携を進めるとともに、リサーチ・アドミニストレーター（研究情報の調査・分析、大型研究費の獲得支援等を行う専門人材）を配置するURA オフィスとも連携するなどして、外部資金獲得を進めます。	i ~ iv	医 病 薬 経 人 芸 看 シス	1 18 3 4 4 9 2 2
	<b>⑨医薬共同研究推進室（仮称）の設置</b> 定期的な医薬合同リサーチ会議（仮称）の開催など、大型資金獲得に向けた取組みを戦略的かつ継続的に推進します。	ii ~ iii	医 薬	4 3
	<b>⑩医工連携の推進</b> 医工学の領域横断的な教育・研究を推進します。	i ~ iii	医 病 芸	2 18 10
	<b>⑪研究設備の充実と共同利用</b> 最先端の研究設備の計画的な導入と全学的な共同利用化に向け、大学本部をはじめ、学部・研究科間の連携を進めます。	i ~ iv	医 薬 シス	1 3 2

区分	項目	期間	組織	掲載頁
社会貢献	<b>⑫研究成果の社会への還元</b> 本学の研究成果である知的財産が広く社会に活用されるよう産学官連携を積極的に推進します。	i ~ iv	医 病 薬 経 人 芸 看 シス	7 15, 18 3, 4, 7 4, 5 1 11, 12 1, 2 5
	<b>⑬高大連携の推進と入試改革への対応</b> 大学と高校の高大連携を推進するとともに、地元の優秀な学生を育成するため、国の高大接続改革の趣旨を踏まえ2020年度導入予定の新入学試験制度を構築します。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	4, 7 7 2 4 8, 12 1 5
	<b>⑭なごやかモデルの推進・地域包括ケアへの協力</b> 質の高い地域包括ケアを継続的に提供できる医療環境の構築に協力します。	ii	医 病 薬 看	7 19 7 2
	<b>⑮まちづくり研究と都市研究の強化</b> グローバル化・都市間競争の激化を踏まえた新しい都市研究・教育を通して名古屋市と名古屋圏の発展に貢献します。	i ~ iii	経 人 芸	4 1, 3 10
国際化	<b>⑯国際化の推進</b> 大学院教育において秋季入学制度の導入や英語での講義を行うとともに、名市大全校の窓口となる海外拠点の設置や海外大学との教育面での交流を促進します。 さらに、世界レベルの研究展開のため、国際共同研究の拡大・深化など、研究の国際化を推進します	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	4, 5 6 2 2 11 3 4
その他	<b>⑰キャンパスの施設利用・整備</b> 施設設備の有効利用を図るとともに、教育研究環境の整備とあり方の検討を進めます。	i ~ iv	医 薬 経 人 芸 看 シス	5 8 6 4 10 3 3

※次頁以降の各学部・研究科、附属病院の未来プランの「3 項目一覧」において、「学際的・組織横断的な取組み」に関連する項目は番号を掲載しています。

※「掲載頁」は各学部・研究科、附属病院の未来プランにおける掲載頁を表しています。

なお、各未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイト (<http://www.nagoya-cu.ac.jp/>) 内の「名市大未来プラン」で公開しています。

名市大未来プラン

検索



## 医学部・医学研究科「人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科」

### 1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

- ・世界トップレベルの特色ある研究を推進します
- ・優秀な医療人を輩出するため総合的な人材育成システムを構築します
- ・最先端の医療研究を推進し、高度で先進的な医療を提供します
- ・研究成果を社会に還元し、市民の健康と福祉の向上に寄与します

名古屋市立女子高等医学専門学校に始まり、70年を超える歴史を持つ医学部・医学研究科は、地域の皆様に支えられ多くの良き医療人を輩出してきました。この良き伝統に加え、本未来プランの下、世界の医学・医療の発展に資する、名市大発の革新的な成果が生まれるよう引き続き努力して参ります。そして、人々の健康と福祉の増進に貢献する、だれからも愛される名市大医学部・医学研究科を作り上げるべく邁進します。

平成27年10月 [医学研究科長・医学部長 浅井 清文]

### 2 主な取組み

#### ① プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革

新たな研究センターを設置し、本医学研究科の特色ある研究を世界トップレベルで推進します。

【期間】ii: 今後3年間に実現

#### ② 病院機構改革と協働した組織強化および最先端の医療研究の推進

市民および社会の医療ニーズの変化に対応した高度急性期医療を安定的に提供するため、臨床医学分野の組織強化を図るとともに、医学研究科と附属病院が協力し、最先端の医療研究を推進し、高度で先進的な医療を提供します。

【期間】ii: 今後3年間に実現

#### ③ 附属病院等との協力による総合的な人材育成システムの構築

卒前から卒業まで総合的な教育システムを構築し、優秀な医療人を輩出する学部となります。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

### 3 項目一覧

区分	項目 [ 上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取り組み」の番号である。) ]	期間	掲載頁
総論	I (2) 世界をリードする大学への発展		
	①プロジェクト推進型の組織による研究体制の改革(8)	ii	1
教育	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	○大学院医薬学総合研究科(仮称)への発展(6・9)	ii ~ iii	4
	II (3) 学生数・教員数の増加		
	③附属病院・連携病院との協力による卒前・卒業までの総合的な人材育成システムの構築(3)	i ~ ii	3
	○医学教育認証評価制度を踏まえた教育システムの整備と認証評価の受審	ii	3
	II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実		
	○MD-PhD コースの充実による医学研究者の育成	ii	5
研究	II (7) リカレント教育の充実		
	○公開講座の一本化による「学びなおし学部(仮称)」の設置(2)	iii	7
	III (1) 全学的な研究推進機関の設置		
研究	○学部・研究科間を越えた連携による研究の推進(4・5・10)	ii	2
	III (4) 共用研究施設・設備の充実		
社会貢献	○共同研究教育施設の改革による研究環境の充実(11)	i ~ ii	1
	IV (3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功		
	○地域包括ケアへの協力(12・14)	ii	7
	IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化		
	○名古屋市教育委員会と連携した高大連携教育の推進(12・13)	ii	7
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
	○高大接続による新たな入試制度の構築(13)	ii	4
○(再掲)名古屋市教育委員会と連携した高大連携教育の推進(12・13)	ii	7	
国際化	IV (7) 名古屋市との協働関係の強化		
	○(再掲)地域包括ケアへの協力(12・14)	ii	7
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○大学院教育の国際化対応(16)	ii	4
その他	○学び続ける医療人の育成に向けた学習環境の整備(1・16・17)	iv	5
	VI (1) 附属病院：市民の医療ニーズに対応した医療提供体制の強化		
	②病院機構改革と協働した臨床医学分野の組織強化	ii	6
	VI (3) 附属病院：臨床研究の強化による新しい医療の創出		
	②最先端の医療研究の推進	ii	6
その他	VIII (3) 業務運営の改善：大学教職員の人材育成・登用		
	○研究者の能力向上を基盤とした研究活動の活性化	iii	2

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

## 附属病院「サクラ咲くプラン」

### 1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

国の医療費削減や患者ニーズが多様化するなか、当院は弛まない努力により継続的な発展を遂げて参りましたが、名市大未来プランの策定を契機に中長期的な視点で「我々自身の今後のあり方」と改めて向き合い、ヒアリングによる意見交換等を重ね、私たちの未来をサクラ咲くプランとして描きました。

本プランでは、「医療環境の変化に対応するために職員の意識改革を行い、成長経営へ向けた病院の変革を実現するとともに、地域でトップレベルのブランド病院を確立する。」ことを目指しています。

本プランの実現は決して容易いものではありませんが、職員一人ひとりが同じ方向に向かって全力を発揮すればできないことは決してないと考えています。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成27年10月 [附属病院長 城 卓志]

※平成30年1月に「サクラ咲くプランNEXT」が公表されました

### 2 主な取組み

#### ① 新たな組織の設置及び施設整備

特定機能病院として高度な医療を提供するため、形成外科、内視鏡医療センター、地域医療連携センター、不育・不妊センター、アイセンター等を設置するとともに、医療需要へ対応するため、手術室等の高度医療施設の整備を行います。

【期間】i: 今後1年間に実現～iii: 今後7年間に実現

#### ② 研究の推進

臨床試験管理センターの体制強化等を通じて、治験や医師主導型の臨床試験を増加させるなど研究の推進を図ります。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

#### ③ 医療人の育成

新たな専門医制度へ対応した教育研修システムを整備するとともに、医療技術職や事務職の人材育成制度について体系化を図るなど人材育成を推進します。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

### 3 項目一覧

区分	項目	期間	掲載頁
	[ 上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。) ]		
附属病院	VI (1) 市民の医療ニーズに対応した医療提供体制の強化		
	○①新たな組織の設置	i ~ ii	11
	○フレキシブルな人員配置	i ~ ii	13
	○メディカルスタッフ充実	i ~ ii	13
	○災害医療の充実	i ~ ii	17
	VI (2) 高度医療提供のための病院施設等の再整備		
	○①新たな施設整備	ii ~ iii	12
	VI (3) 臨床研究の強化による新しい医療の創出		
	○②研究の推進(⑧⑩⑫)	i ~ ii	18
	VI (4) 地域社会を担う優れた医療人の育成		
	○③医療人の育成(③)	i ~ ii	15
	○新たな研究分野の設置(⑫)	i ~ ii	15
	VI (5) 安定経営のための経営改革の推進		
	○ブランド力のアップ	i ~ iii	16
○モチベーションの向上	i ~ iii	16	
○経営基盤の強化(⑭)	i ~ iii	19・20	
VI (6) 東部・西部医療センターとの連携強化による名古屋市全体の医療機能の充実			
○病院局との連携の強化	i	19	

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

## 薬学部・薬学研究科「薬学未来プラン“薬進”」

### 1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

- ・独創性・新規性に富む世界最先端の創薬・臨床研究を強力に推進します
- ・薬剤師や創薬研究者をはじめとする医療と健康に貢献する人材育成を行います
- ・くすりのプロとして、様々な形で、社会貢献をグローバルに展開します

薬学部は130年余の長い歴史と伝統をもち、多くの優れた人材を輩出してきましたが、急速に進む少子高齢化、医薬品の多様化、医療費の高騰、社会のグローバル化と地域社会の変容、地球環境の変化などにより、薬学が取り組むべき課題も質・量ともに急拡大しています。これに対応するには、異なる分野、職種、地域との連携を密にして、多角的に取り組む必要があります。薬学は、様々な基礎科学を根にもつ学問であり、多種多様な領域と連携して教育・研究を行なうポテンシャルと柔軟性をもっています。私たちは、この薬学の特徴を生かし、その教育と研究の成果を、世界に、地域に、そして人に届け、人類の健康と福祉の発展に貢献して参ります。

平成27年10月 [薬学研究科長・薬学部長 平嶋 尚英]

### 2 主な取組み

#### ① 創薬基盤科学研究所の拡充と戦略的研究展開

創薬基盤科学研究所の組織を再編し、他学部と連携しながら創薬に直結した研究体制を作り、世界トップレベルの研究推進と外部資金の獲得を図ります。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

#### ② 高度薬剤師養成に向けた連携

全国レベル、東海地区レベル(東海薬学教育コンソーシアム)、県レベル(市大病院、東部・西部医療センターと地元薬局)での連携強化による高度薬剤師教育体制を確立します。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

#### ③ 海外拠点の設置

名市大全校との窓口としてハジエテペ大学に事務局を設置するとともに、広く海外からの留学生の獲得、国際共同研究の拡大・深化を行います。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

### 3 項目一覧

区分	項目	期間	掲載頁
	[ 上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。) ]		
総論	I (2) 世界をリードする大学への発展		
	①創薬基盤科学研究所(創薬研)の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得(8⑩)	i ~ ii	3
	I (4) 名古屋市総合計画2018への名市大の取組みの掲載(名古屋工業大学との連携)		
	○名古屋工業大学との連携強化	i ~ ii	4
教育	I (9) 他大学との連携強化		
	○(再掲)名古屋工業大学との連携強化	i ~ ii	4
	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学教養教育の充実への協力(1)	i ~ ii	4
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	○大学院医薬学総合研究科の設立(6)	ii ~ iii	4
○医療経済マネジメントコースへの参画(4)	ii	4	
○PMDA との包括連携協定の締結に基づく教育プログラムの開発	i ~ ii	4	
②高度薬剤師養成にむけた連携(3⑫)	i ~ ii	4	
○名古屋市衛生研究所との連携大学院の設立	i	4	
研究	II (3) 学生数・教員数の増加		
	○大学院博士課程の学生への経済支援の強化	i ~ ii	5
	III (2) 戦略的な外部資金の獲得		
	①(再掲)創薬基盤科学研究所(創薬研)の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得(8⑩)	i ~ ii	3
○医薬共同研究推進室および産学連携研究推進室の設置(8⑨⑪⑫)	ii	3	
社会貢献	III (4) 共用研究施設・設備の充実		
	①(再掲)創薬基盤科学研究所(創薬研)の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得(8⑩)	i ~ ii	3
	○(再掲)医薬共同研究推進室および産学連携研究推進室の設置(8⑨⑪⑫)	ii	3
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
○学び直し教育の充実(2⑬)	i ~ ii	7	
国際化	IV (3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功		
	○「なごやかモデル」の推進(12⑭)	ii	7
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
	○推薦入試への地元高校卒の導入(13)	i ~ ii	7
○高校への出張講義・研究指導による学会発表プログラムの導入(12⑬)	i ~ ii	7	
その他	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	③海外拠点の設置(16)	i ~ ii	6
	I (1) 総論: 愛校心の醸成・開学70周年(2020年)に向けた気運向上		
○同窓生意識の共有と同窓会との連携強化	ii	8	
その他	VII (3) 大学経営・財務内容の改善: 資産の有効活用と自己収入の確保		
	○コンビニエンスストア併設宿泊施設の設置(17)	ii ~ iii	8
	VIII (5) 業務運営の改善: 女性教職員の積極的な採用・登用		
○上位職(教授・准教授)への女性登用	ii	5	

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。



1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

- ・経済学・経営学に軸足を置いてその学術的追究を基本とする歩みを継続する
  - ・社会の状況に合わせて諸科学の発展に必要な教育・研究のあり方や変化の方向を意識し、それらを取り入れることに躊躇しない
  - ・学術研究の成果を世界に問い続けるとともに、それらに基づいた教育によって優れた人材を多様な分野に輩出する
- これらの目標を具体化し、それらを達成することで、名市大経済学研究科が社会の発展に寄与するためのプランです。

平成27年10月 [経済学研究科長・経済学部長 焼田 党]

2 主な取り組み

① 大学院教育システム等の改善及び研究者の養成

医療経済マネジメントコースの設置をはじめとして、専門的な実務教育を目的とした、ビジネスコースや政策分析コース等の開設に向けた準備や、複数指導体制の実質化などを進めます。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

② 名古屋市をはじめ公的機関との連携の拡大／地元企業等との連携の拡大

名古屋市と協力した地域開発プロジェクトの実施や、「地域実践科目」として地元企業や商店街との連携強化による現場の経済問題や経営問題の解決への貢献などを図ります。

【期間】ii: 今後3年間に実現

③ 最先端で高水準な研究の推進と次世代リーダーの育成

世界をリードする最先端で質の高い研究活動を推進し、これを教育に還元することで次世代のリーダーを育成していきます。また、協定校をはじめ海外大学との教員・大学院生の学術交流を活発化させます。

【期間】iii: 今後7年間に実現

3 項目一覧

区分	項目 [ 上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。) ]	期間	掲載頁
総論	I (2) 世界をリードする大学への発展		
	③最先端で高水準な研究の推進と次世代リーダーの育成	iii	4
	○研究における経済学・経営学を軸とする学術的 pursuit と他研究科との積極的交流	iii	4
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学的な教養教育の充実への協力(①)	ii	2
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	①大学院教育システム等の改善及び研究者の養成(④)	i ~ ii	2
	II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実		
	○(再掲)「基礎教育」と「実務教育」を柱とした学部教育の充実	ii	2
	II (7) リカレント教育の充実		
	○他研究科・学部とも協力した、様々な問題意識を持つ社会人の学び直しの機会の提供(②⑦)	i ~ ii	3
研究	III (2) 戦略的な外部資金の獲得		
	○外部研究資金の獲得(⑧)	ii	4
社会貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進		
	②地元企業等との連携の拡大(⑫)	ii	5
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	○他団体等との連携による「名古屋の経済・経営分析」(⑫⑮)	ii	4
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
	○多様な人材発掘と教育に向けた入試制度の変更(⑬)	ii	2
	IV (7) 名古屋市との協働関係の強化		
	②公的機関との連携の拡大(⑫)	ii	5
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○国際交流の活発化と国際化に対応した教育プログラムの提供(⑯)	i ~ ii	2
その他	VII (5) 大学経営・財務内容の改善：施設整備にかかる財源の確保		
	○山の畑キャンパスにおける施設・整備の効率的な利用(⑰)	iii	6
	VIII (3) 業務運営の改善：大学教職員の人材育成・登用		
	○若手教員のサポートと次世代の大学運営を担う人材の育成	ii	6

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。



1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

人文社会学部は創立20周年を迎えました。学部から遅れて設置された人間文化研究科と一体になり、人文・社会科学の複合的な研究・教育の拠点として発展してきました。この20年の歩みを振り返り、名古屋都市圏に貢献する研究・教育をさらに進めていきたいと思ひます。ESD(持続可能な社会のための教育)を教育の柱にしていますが、名古屋都市圏の持続可能な発展のために、世代育成、リニア開通を念頭に置いたまちづくり、国際都市名古屋の多文化共生に資する人材育成と研究に特に力を入れたいと思ひます。また学内では全ての学生の成長を支える教養教育を積極的に担うと同時に他研究科と連携した文理横断の新しい研究にもチャレンジします。

平成27年10月 [人間文化研究科長・人文社会学部長 伊藤 恭彦]

2 主な取組み

①ESDを柱とした教育・研究活動の絶え間ない革新

ESD 国際会議後の「持続可能性」課題の国際動向を踏まえ、絶えずESDを柱とした教育・研究活動を革新していきます。

【期間】i:1年以内に実現~ii:今後3年間に実現

②大学院における専門職のリカレント教育の実施

大学院に現職の保育士、教員(幼稚園、中学校、高等学校)、公務員、社会福祉専門職を積極的に受け入れ専門職のリカレント教育を進めます。

【期間】ii:今後3年間に実現

③名古屋市教育委員会子ども応援委員会事業への強力なサポート

学校現場と教育に強い臨床心理士や公認心理師及び社会福祉士の養成を行うため、大学院改組や学部カリキュラムの整備を進めるとともに、子ども応援委員会に対してサポート(研修・実践プログラム開発)していきます。

【期間】i:1年以内に実現~iii:今後7年間に実現

3 項目一覧

区分	項目 [ 上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。) ]	期間	掲載頁	
総論	I (3) 名古屋市との連携強化 ○名古屋市と名古屋都市圏の「まちづくり」への貢献と人材の育成(12 15)	i ~ iii	1	
	I (9) 他大学との連携強化 ○近隣大学との交流と連携の推進	ii	3	
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施 ○教養教育の講義における積極的な関与(1)	i	2	
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進 ①ESDを柱とした教育・研究活動の絶え間ない革新 ○名古屋市大の他部局との連携強化(5 7 15)	i ~ ii ii	3 3	
	II (3) 学生数・教員数の増加 ○文学部部の発展・拡充を目指した全学的な検討 ○(再掲)名古屋市大の他部局との連携強化(5 7 15)	i ~ iii ii	3 3	
	II (7) リカレント教育の充実 ○名古屋市大全体の社会人リカレント教育の再構築における中心的役割での関与(2) ②天学院における現職保育士等の受け入れによる専門職のリカレント教育の実施(2)	ii ~ iii ii	2 2	
	研究	III (1) 全学的な研究推進機関の設置 ○医療系・理系を含む異分野との共同研究の拡大	i ~ ii	4
		III (2) 戦略的な外部資金の獲得 ○大型外部研究資金の獲得(8)	i ~ ii	4
	社会貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進 ○(再掲)名古屋市大の他部局との連携強化(5 7 15)	ii	3
IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化 ③名古屋市教育委員会子ども応援委員会事業への強力なサポート(12)		i ~ iii	1	
IV (6) 高大連携の推進による地域の優秀な学生の育成 ○高大接続課題の検討(13)		i ~ ii	4	
IV (7) 名古屋市との協働関係の強化 ○(再掲)名古屋市と名古屋都市圏の「まちづくり」への貢献と人材の育成(12 15) ○名古屋国際センターやJICAとの連携強化による名古屋市の課題対応(12)		i ~ iii i ~ iii	1 1	
IV (8) 地域に開かれた大学 ○社会人の多様なニーズに対応した受け入れ方法の構築		ii	2	
国際化		V (1) グローバル化アクションプランの策定 ○「グローバル化アクションプラン」の発展への貢献(16)	ii ~ iii	2
		その他	VII (3) 大学経営・財務内容の改善:資産の有効活用と自己収入の確保 ○滝子キャンパスの一体化と整備への協力(17)	i ~ ii

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

芸術工学研究科・芸術工学部は、「芸術工学」の原点に立ち返りつつ、大学院の研究教育体制の強化を行うなど、現代社会の困難な課題解決のために、希望と共感のもてるデザイン研究、教育拠点を目指します。

「芸術工学」は新しい学問分野として、理念の構築に多くのエネルギーが注がれてきました。学部創設後今日までの20年、地域社会から国際社会に至るまで、学術分野の実績及び社会への貢献を積み重ねながら理念を検証してきたと言えます。この機会に創設時の理念を再確認し、社会の状況の変化に対応すべく将来構想を構築するものです。そのために公立総合大学に設置された学部、都市部に立地するキャンパス、少人数による実践教育などを活かしつつ、大学院における教育研究体制の強化、学際的体制の構築を図り、地域のデザイン拠点を目指そうとするものです。

平成27年10月 【芸術工学研究科長・芸術工学部長 鈴木 賢一】

2 主な取組み

① 大学院生研究体制の強化

大学院生研究体制を整えるため、複数指導体制を効果的に進めるための合同ゼミの開催、研究進捗チェックのための中間発表の充実を図ります。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

② 外部資金の獲得推進

科学研究費の獲得支援体制の充実を図るとともに、自治体からの研究委託、民間との受託共同研究等の外部に対する働きかけを強化します。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

③ 実習課題への地域課題の導入

実習課題に、地域における課題解決のためのテーマを各領域で導入し、課題を通じた社会貢献を目指します。

【期間】i: 今後1年間に実現～ii: 今後3年間に実現

3 項目一覧

区分	項目	期間	掲載頁
総論	I (4) 名古屋市総合計画2018への名市大の取組みの掲載(医薬看工連携)		
	○学内における共同研究の推進(10 15)	iii	10
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学教養教育への参画(1)	i ~ ii	9
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	①大学院生研究体制の強化	i ~ ii	8
	○学部における他領域の学習	iii	9
	II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実		
	○学生のキャリア形成・就職支援の充実	i ~ ii	8
研究	II (7) リカレント教育の充実		
	○社会人のリカレント教育の推進(2)	i ~ ii	8
	III (1) 全学的な研究推進機関の設置		
研究	○複数教員による共同研究支援	iii	10
	III (2) 戦略的な外部資金の獲得		
社会 貢献	②外部資金の獲得推進(8)	i ~ ii	9
	IV (1) 全学的な社会貢献の推進		
	○シンクタンク機能の強化(12)	iii	11
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	③実習課題への地域課題の導入	i ~ ii	11
	IV (5)名古屋市教育委員会との連携強化		
	○小中学校と連携したデザイン教育	i ~ ii	12
社会 貢献	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
	○入試改革への対応(13)	i ~ ii	8
	○高校との連携強化(12 13)	iii	12
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○国際交流協定校との交流(16)	iii	11
その他	I (6) 総論：分散したキャンパスの統合		
	○キャンパス立地の検討(17)	iv	10
	VIII (2) 業務運営の改善：本学の知名度向上		
	○広報の充実	i ~ ii	13
	VIII (3) 業務運営の改善：大学教職員の人材育成・登用		
○芸術工学部修了生の教育への参画	iii	10	

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。

### 1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

「誰からも愛され頼りにされる名市大看護学部・看護学研究科に」

人々の健康の保持増進や社会的要請に応え得る看護学の一層の充実と発展を推進するために、看護学部・看護学研究科は看護研究の学術的追究とその成果を教育に反映させ、看護学教育の質的向上を図っていきます。また、看護学分野別認証評価受審による評価にて教育研究水準を保証します。他の研究科や病院等、そして地域社会との連携を強化することにより、学術的追究と看護実践力の一層の向上を図り、社会から期待される保健・医療・福祉に貢献する優秀な人材を輩出します。また、高度実践看護師等の育成を推進することにより、臨床・臨地での看護水準、ひいては医療水準を上げる指導力をもったリーダーを育成していきます。

平成27年10月 [看護学部長・看護学研究科長 北川 真理子]

### 2 主な取組み

#### ① 実習施設との連携による教育方略の導入

医学部附属病院を始めとする実習施設と連携して、現役看護職者による臨床教授等を拡充し、臨床現場での判断力・実践力を養う教育方略を導入します。

【期間】ii: 今後3年間に実現～iii: 今後7年間に実現

#### ② 名古屋市立大学看護学会(仮称)の創設と学会誌の発刊

名古屋市立大学看護学会(仮称)を創設し、看護学部教員の研究活動を更に促進すると共に、大学院修了生、医学部附属病院や市が設置する保健医療福祉機関等の看護職員が行う研究成果を積極的に発信します。

学会の創設を機に、現在刊行している看護学部紀要を「名古屋市立大学看護学会誌(仮称)」に改め充実させます。

【期間】ii: 今後3年間に実現

#### ③ 学部開設20周年(2019年)記念事業の実施

2019年に迎える学部開設20周年に向けて気運の向上に努め、同窓会をはじめとして機動的な情報発信を行い、記念事業を企画し実施します。

名古屋市立大学看護学会(仮称)の創設に際し、同窓生への積極的な学会への参加を促進し、母校愛を醸成します。

【期間】ii: 今後3年間に実現～iii: 今後7年間に実現

### 3 項目一覧

区分	項目 [上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取組み」の番号である。)]	期間	掲載頁
総論	I (1) 愛校心の醸成・開学70周年(2020年)に向けた気運向上		
	③学部開設 20周年(2019年)記念事業の実施	ii ~ iii	3
教育	II (1) 多面的な教養教育の実施		
	○全学的な教養教育の充実への協力(①)	ii	1
	II (2) 学部・研究科、大学間連携プログラムの推進		
	○看護学教育認証評価制度を踏まえた教育システムの整備と認証評価の受審	iii ~ iv	1
	○市民の健康と福祉の増進に貢献しうる優秀な人材の輩出(⑫⑬)	ii	1
	①実習施設との連携による臨床判断力・実践力向上を目指した教育方略の導入(③)	ii ~ iii	1
	○大学院の活性化(②)	iii	1
	○医療心理センター(仮称)設立への協力による実践的な人材育成(⑤)	ii	2
II (5) 学生のキャリア形成・就職支援の充実			
	○高度実践看護師教育の充実と拡大	ii	2
研究	III (1) 全学的な研究推進機関の設置		
	②名古屋市立大学看護学会(仮称)の創設と学会誌の発刊	ii	2
	III (5) 看護実践研究センターを中心とする学際的研究の推進		
	○学内他部局や他大学との連携による研究体制の整備と学際的研究の推進(⑧)	iii	2
社会貢献	IV (1) 全学的な社会貢献の推進		
	○看護実践研究センターを軸とした市民や地域の問題解決に寄与する事業の推進	i ~ ii	2
	IV (2) 研究成果の社会への還元		
	○地域の看護水準向上に資する新規事業の展開	ii	2
IV (3) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功			
	○「なごやかモデル」事業の継続による地域貢献(⑫⑭)	ii	2
国際化	V (1) グローバル化アクションプランの策定		
	○英語教育、海外留学の推進(⑯)	ii	3
	○学生の国際交流推進(⑯)	ii	3
	○医療現場での外国人患者の支援に関する教育の取組(⑯)	ii	3
	○教員の海外研修や、海外の研究者との共同研究の促進(⑯)	iii	3
その他	VII (5) 大学経営・財務内容の改善: 施設整備にかかる財源の確保		
	○学生生活環境・教育環境の整備、新たな学部棟の施設整備(⑰)	iv	3
	VIII (2) 業務運営の改善: 本学の知名度向上		
	○広報の充実化	ii	3
	③(再掲)学部開設 20周年(2019年)記念事業の実施	ii ~ iii	3

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。



## システム自然科学研究科「リーディング・サイエンス・プラン」

### 1 策定にあたって(未来プランが目指すもの)

理学系研究科として世界的な先端研究を推進するとともに、組織の充実により名古屋圏域の基礎科学教育をリードし、地域の発展をサポートします。

本研究科は学部を持たない独立研究科として名古屋市立大学の基礎科学研究や大学院教育などを担ってきましたが、研究をさらに推進するだけでなく、名古屋圏の基礎科学教育の振興にも貢献したいと考えています。そのため、理学系新学部の設置や高齢者による自然科学振興組織の設置などの検討・実現を目指します。

平成27年10月 [システム自然科学研究科長 杉谷 光司]

※平成30年4月に総合生命理学部が新設されたことに伴い、同年10月に「リーディング・サイエンス・プランII」が公表されました

### 2 主な取組み

#### ① 研究基盤の重点的整備の推進

研究基盤の重点的な整備を推進するため、既存の研究センターの機能を高め、かつ新たな研究センターの設立を目指します。

【期間】ii: 今後3年間に実現～iv: 15年後を見すえて

#### ② 理学系新学部の設置

理学系の新学部設置に向けて取り組みます。

【期間】ii: 今後3年間に実現～iv: 15年後を見すえて

#### ③ 高齢者による自然科学振興のための新たな組織（SSLC）の構築

自然科学の知識と経験があり、向上心に富んだ高齢者の新たな活躍の場として、初等・中等教育における科学振興に携わるSSLC（シニア・サイエンス・リーダーズ・クラブ）の設立を目指します。

【期間】ii: 今後3年間に実現～iv: 15年後を見すえて

### 3 項目一覧

区分	項目 [ 上段:名市大未来プランの区分 下段:学部・研究科未来プランの項目(末尾の白抜き数字は、関連する「学際的・組織横断的な取り組み」の番号である。) ]	期間	掲載頁
総論	I (5) 新学部の設置		
	○教養教育改革の推進(①)	ii～iv	3
	○理学系新学部の設置	ii～iv	3
教育	○新学部設置のキャンパス内スペース確保等の検証(⑰)	ii～iv	3
	II (3) 学生数・教員数の増加		
	○2専攻化による教育・研究体制の充実	ii～iv	3
研究	○バランスの取れた分野の構成	ii～iv	3
	○受け入れ学生の増加	ii～iv	3
	III (4) 共用研究施設・設備の充実		
研究	①研究基盤の重点的整備の推進	ii～iv	2
	○研究の選択と集中	ii～iv	2
	○学内他部局と連携した研究の効率的な推進(⑪)	ii～iv	2
	○競争的研究資金の増大(⑧)	ii～iv	2
社会 貢献	IV (5) 名古屋市教育委員会との連携強化		
	○SSH採択校との連携と理科教育の充実(⑫⑬)	i～iv	5
	○地元の優秀な学生の育成(⑬)	i～iv	5
	③高齢者による自然科学振興のための新たな組織（SSLC）の構築	ii～iv	5
	IV (6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成		
	○(再掲)SSH採択校との連携と理科教育の充実(⑫⑬)	i～iv	5
	○(再掲)地元の優秀な学生の育成(⑬)	i～iv	5
	③(再掲)高齢者による自然科学振興のための新たな組織（SSLC）の構築	ii～iv	5
	IV (8) 地域に開かれた大学		
○サイエンスカフェと市民公開講座の継続及び発展(②)	i～iv	5	
○SSLCを活用した地域貢献	i～iv	5	
○名市大科学教育推進センター（仮称）の設置	i～iv	5	
国際化	V (3) 生物多様性研究の国際的な拠点づくり		
	○優秀な留学生獲得のための支援体制の確立(⑯)	i～iii	4
	○研究協定の締結と交流の拡大(⑯)	i～iii	4
	○生物多様性研究センターの機能充実(⑯)	i～iii	4

※学部・研究科未来プランは、公立大学法人名古屋市立大学ウェブサイトにて公開しております。